

# 第三次国有林野施業実施計画 第三次変更計画書

(網走西部森林計画区)

計画期間 ( 自 平成 2 1 年 4 月 1 日 )  
                  ( 至 平成 2 6 年 3 月 3 1 日 )

策 定 年 月 日 : 平成 2 1 年 3 月 3 0 日  
第 一 次 変 更 年 月 日 : 平成 2 3 年 3 月 3 0 日  
第 二 次 変 更 年 月 日 : 平成 2 4 年 3 月 3 0 日  
第 三 次 変 更 年 月 日 : 平成 2 5 年 3 月 2 8 日

北海道森林管理局

## 網走西部森林計画区の第三次国有林野施業実施計画の変更について

### 【変更理由】

次の理由から国有林野管理経営規程（平成11年農林水産省訓令第2号）第14条第2項に基づき変更するものである。

- 1 国有林野管理経営規程の一部を改正する訓令について（平成24年12月19日付け24林国経第41号）に基づき、機能類型の名称及び区域を変更する。
- 2 「国有林野管理経営規程の運用について」等の一部改正について（平成24年12月19日付け24林国経第42号）に基づき、記載事項を変更する。

なお、本変更計画は、平成25年4月1日から適用する。

### 【変更項目及び頁】

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	（1）	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量		
	（1）伐採造林計画簿	〈1〉	1
	（2）水源涵養タイプにおける施業群別面積等	（1）	1
	（3）水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	（2）	3
	（4）伐採総量	〈3〉	4
	（5）更新総量	（4）	6
	（6）保育総量	（4）	6
6	レクリエーションの森の名称及び区域	（12）	8
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域等	（－）	13
8	その他必要な事項		
	（3）森林共同施業団	（－）	13

注：1 （ ）書は、変更前の国有林野施業実施計画書の頁であり、〈 〉書は、第一次変更計画書の頁である。

2 本文については、変更等を行う項目に係る部分を掲載しており、下線部等が変更・追加等の箇所である。

【現行計画】

- 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別区域  
3機能類型の配置については、国有林野施業実施計画図(別添1)による。
- 2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿(別添2)による。

(2) 水源かん養タイプにおける施業群別の面積等

(単位:ha)

区分	面積 (ha)	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年	
			樹種	
単層林 施業群	16,948	人為を積極的に加えることにより、 単層状態の森林を造成・維持する。 【施業方法:育成単層林施業】	トドマツ	65年
			アカエゾマツ ・エゾマツ	80年
			カラマツ ・グイマツ	50年
			その他針葉樹	60年
長期単層林 施業群	15,050	人為を積極的に加えることにより、 伐期の長期化を図り、単層状態の 森林を造成・維持する。 【施業方法:育成単層林施業】	トドマツ	100年
			アカエゾマツ ・エゾマツ	120年
			カラマツ ・グイマツ	80年
			その他針葉樹	90年
複層林 施業群	1,827	人為を積極的に加えることにより、 複数の樹冠層を有する森林を造成し、 将来にわたり非皆伐状態を維持する。 【施業方法:育成複層林施業】	トドマツ	伐採始期 60年 伐採終期 100年
			アカエゾマツ ・エゾマツ	伐採始期 70年 伐採終期 120年
			カラマツ ・グイマツ	伐採始期 40年 伐採終期 80年
			その他針葉樹	伐採始期 50年 伐採終期 90年
混交林 施業群	10,749	必要により人為を加えることにより、 広葉樹等の導入・育成を図り、 針広混交林を造成・維持する。 【施業方法:育成複層林施業】	20年	
育成天然林 施業群	43,737	必要により人為を加えることにより、 多様な樹種による複数の樹冠層を 有する森林を造成・維持する。 【施業方法:育成複層林施業】		
天然生林 施業群	24,530	天然力を活用することにより、 森林を造成・維持する。 【施業方法:天然生林施業】		
計	112,840			

注) 林地面積の集計である。

計は四捨五入の為、必ずしも一致しない。(以下の表についても同じ)

【変更計画】

- 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域  
国有林野施業実施計画図（別添1）による。
- 2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量
  - (1) 伐採造林計画簿  
伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿（別添2）による。
  - (2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

(単位：ha)

区分	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年	
			樹種	
単層林施業群	17,454	人為を積極的に加えることにより、単層状態の森林を造成・維持する。 【施業方法：育成単層林へ導くための施業】	トドマツ	65年
			アカエゾマツ・エゾマツ	80年
			カラマツ・グイマツ	50年
			その他針葉樹	60年
長期単層林施業群	15,050	人為を積極的に加えることにより、伐期の長期化を図り、単層状態の森林を造成・維持する。 【施業方法：育成単層林へ導くための施業】	トドマツ	100年
			アカエゾマツ・エゾマツ	120年
			カラマツ・グイマツ	80年
			その他針葉樹	90年
複層林施業群	1,827	人為を積極的に加えることにより、複数の樹冠層を有する森林を造成し、将来にわたり非皆伐状態を維持する。 【施業方法：育成複層林へ導くための施業】	トドマツ	伐採始期 60年 伐採終期 100年
			アカエゾマツ・エゾマツ	伐採始期 70年 伐採終期 120年
			カラマツ・グイマツ	伐採始期 40年 伐採終期 80年
			その他針葉樹	伐採始期 50年 伐採終期 90年
混交林施業群	10,749	必要により人為を加えることにより、広葉樹等の導入・育成を図り、針広混交林を造成・維持する。 【施業方法：育成複層林へ導くための施業】	20年	
育成天然林施業群	43,769	必要により人為を加えることにより、多様な樹種による複数の樹冠層を有する森林を造成・維持する。 【施業方法：育成複層林へ導くための施業】		
天然生林施業群	24,591	天然力を活用することにより、森林を造成・維持する。 【施業方法：天然生林へ導くための施業】		
合計	113,440			

注) 林地面積の集計である。

計は四捨五入の為、必ずしも一致しない。(以下の表についても同じ)

【現行計画】

(3) 水土保持林の水源かん養タイプにおける施業群別の上限伐採面積

(単位:ha)

施業群	単層林	長期単層林	複層林	混交林	育成天然林	天然生林
上限伐採面積	1,329	758	298	2,687	10,934	6,133

(4) 資源の循環利用林の生産群別の面積

(単位:ha)

区分	面積	生産目標等			伐期齢 又は 回帰年
		利用形態	樹種	目標径級	
単層林 生産群	506	一般材	トドマツ	22～38	65
			アカエゾマツ・エゾマツ	22～38	80
			カラマツ・グイマツ	22～38	50
			その他針葉樹	22～38	60
長期単層林 生産群	-	一般材	トドマツ	40～	90
			アカエゾマツ・エゾマツ	40～	110
			カラマツ・グイマツ	40～	80
			その他針葉樹	40～	90
複層林 生産群	-	一般材	トドマツ	22～38	※100
			アカエゾマツ・エゾマツ	22～38	※120
			カラマツ・グイマツ	22～38	※80
			その他針葉樹	22～38	※90
混交林 生産群	-	一般材	トドマツ	22～38	※※65
			アカエゾマツ・エゾマツ	22～38	※※80
			カラマツ・グイマツ	22～38	※※50
			その他針葉樹	22～38	※※60
育成天然林 生産群	33	一般材	トドマツ	22～38	20年
			アカエゾマツ・エゾマツ	22～38	
			カラマツ・グイマツ	22～38	
			その他針葉樹	22～38	
			ナラ・ウダイカバ・ダケカンバ・ニレ	46～	
			カツラ・シナ・セン・ヤチダモ	36～	
			クルミ・アサダ・ホオ・キハダ・イタヤ	24～	
			サクラ類・シラカンバ・ハン・ドロ	16～	
エンジュ・アオダモ	16～				
天然生林 生産群	61	一般材	トドマツ	22～38	
			アカエゾマツ・エゾマツ	22～38	
			カラマツ・グイマツ	22～38	
			その他針葉樹	22～38	
			ナラ・ウダイカバ・ダケカンバ・ニレ	46～	
			カツラ・シナ・セン・ヤチダモ	36～	
			クルミ・アサダ・ホオ・キハダ・イタヤ	24～	
			サクラ類・シラカンバ・ハン・ドロ	16～	
エンジュ・アオダモ	16～				
計	600				

注) ※印は、「上木最終伐採林齢」、※※印は、「択伐を開始する林齢」である。

(5) 資源の循環利用林の生産群別の標準伐採量

各生産群の面積が少ないことから、標準伐採量は定めない。

## (6) 伐採総量

(単位:m<sup>3</sup>、ha)

区 分		林 地					林地 以外	合 計	
		主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計			
水 土 保 全 林	国土保全タイプ	5,065	(2,215) 117,199	122,264	45,200	710,512	-	710,512	
	水源かん養タイプ	単層林	9,692	(3,684) 188,414					198,106
		長期単層林	2,768	(3,511) 175,568					178,336
		複層林	1,690	(437) 22,963					24,653
		混交林	1,170	(2,034) 93,118					94,288
		育成天然林	6,732	(544) 37,844					44,576
		天然生林	2,293						2,293
		小計	24,345	(10,210) 517,907					542,252
	計	29,410	(12,425) 635,106	664,516					
の 森 林 と 人 と の 共 生 林	自然維持タイプ								
	森林空間利用タイプ		(41) 796	796					
	計		(41) 796	796					
資 源 の 循 環 利 用 林	単層林	663	(86) 4,661	5,324	/	/	/	/	
	長期単層林								
	複層林								
	混交林								
	育成天然林		(8) 454	454					
	天然生林								
	計	663	(94) 5,115	5,778					400
合 計		30,073	(12,560) 641,017	671,090	45,600	716,690	-	716,690	
年 平 均		6,015	(2,910) 143,548	149,563	6,453	156,017	-	156,017	

注) 上段( )は、間伐面積である。

【変更計画】

(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：h a)

施業群	単層林	長期単層林	複層林	混交林	育成天然林	天然生林
上限伐採面積	<u>1,412</u>	758	298	2,687	<u>10,941</u>	<u>6,148</u>

※【現行計画】の(4)資源の循環利用林の生産群別の面積(5)資源の循環利用林の生産群別の標準伐採量は削除

(4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、h a)

区 分	林 地					林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	5,065	(2,215) 117,199	122,264				
自然維持タイプ	-	-	-				
森林空間利用タイプ	-	(41) 796	796				
快適環境形成タイプ	-	-	-				
水源涵養タイプ	単層林	(3,770) <u>10,355</u>	<u>193,075</u>	<u>203,430</u>			
	長期単層林	2,768	(3,511) 175,568	178,336			
	複層林	1,690	(437) 22,963	24,653			
	混交林	1,170	(2,034) 93,118	94,288			
	育成天然林	6,732	(552) <u>38,298</u>	<u>45,030</u>			
	天然生林	2,293	-	2,293			
	計	<u>25,008</u>	(10,304) <u>523,022</u>	<u>548,030</u>			
合 計	30,073	(12,560) 641,017	671,090	45,600	716,690	-	716,690
年 平 均	6,015	(2,910) 143,548	149,563	6,453	156,017	-	156,017

注1) 上段( )は、間伐面積である。

注2) 「年平均」は、変更前の年平均に今回の変更計画による伐採量の増減量を本計画期間の残期間で除したものを加えて算出した数量を計上した。

【現行計画】

(7) 更新総量

(単位 :ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 かん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
人 工 造 林	単 層 林 造 成	4	62	66				10	76
	複 層 林 造 成		16	16					16
	計	4	78	82				10	92
天 然 更 新	天 然 下 種 第 1 類								
	天 然 下 種 第 2 類	65	204	269					269
	ぼう芽更新								
	計	65	204	269					269
合 計		68	283	351				10	361

(8) 保育総量

(単位 :ha)

区 分		水 土 保 全 林			森 林 と 人 と の 共 生 林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タ イ プ	水 源 かん 養 タ イ プ	計	自 然 維 持 タ イ プ	森 林 空 間 利 用 タ イ プ	計		
保 育	下 刈	918	3,548	4,466					4,466
	つ る 切 り		31	31		1	1	5	37
	除 伐		21	21				3	25

【変更計画】

(5) 更新総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合計
人工造林	単層林造成	4	-	-	-	72	76
	複層林造成	-	-	-	-	16	16
	計	4	-	-	-	88	92
天然更新	天然下種第1類	-	-	-	-	-	-
	天然下種第2類	65	-	-	-	204	269
	ぼう芽更新	-	-	-	-	-	-
	計	65	-	-	-	204	269
合 計		69	-	-	-	292	361

(6) 保育総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合計
保 育	下 刈	918	-	-	-	3,548	4,466
	つる切り	-	-	1	-	36	37
	除 伐	-	-	-	-	25	25

6 レクリエーションの森の名称及び区域

【現行計画】

種類	名称	新設・既設	面積	位置 (林小班)	選 定 理 由	備 考	
自然休養林	網走西部森林管理署						
	サロマ湖畔 自然休養林 * (森林スポーツゾーン) (風景ゾーン)	既設	105.14 358.46 463.60	別表 参照	鬱蒼とした原生的森林が湖上に映える雄大な景観、原生花園といった自然と親しめる。	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
	網走西部森林管理署西紋別支署						
	滝上溪谷 自然休養林 (自然観察教育ゾーン) * (自然観察教育ゾーン) (風景ゾーン) 小 計	既設	11.10 494.04 344.04 849.18	別表 参照	天然林が多く、広葉樹林から針葉樹林へ移行する林相が美しく、野生動物植物の観察に適し、樹海及び山岳の眺望がすばらしい。	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
森 林 計 画 区 計		1箇所	1,312.78				
自然観察林	網走西部森林管理署						
	ひらやま 自然観察教育林 *	既設	0.95 1,098.58 1,099.53	別表 参照	総面積のうち約500haが高山帯で、道東随一の貴重で豊富な高山植物が展開し、学術上からの価値がきわめて高い。	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
	森 林 計 画 区 計		1箇所	1,099.53			
	網走西部森林管理署						
森林スポーツ林	天 狗 岳 森林スポーツ林 *	既設	1.65 773.89 775.54	別表 参照	比麻良山、チトカニウシ山、支湧別岳等1000m以上の山岳連峰が視野に入り、天狗岳は夏山登山に利用されている。	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
	北 見 峠 森林スポーツ林	既設	780.66	別表 参照	エゾマツ、ダケカンバ等の原生的森林に覆われ、林床はチシマザサが密生している。国道333号線のシラカンパロードは旅行者の憩いの場であり、春から秋は森林ハイキング、冬は早い時期からの降雪によりクロスカントリースキーが可能で道外からの利用も多く、年間を通じたレクリエーションの場である。	保健機能森林に該当する森林	
	森 林 計 画 区 計		2箇所	1,556.20			
	網走西部森林管理署						
野外スポーツ地域	北 大 雪 野外スポーツ地域	既設	373.37	別表 参照	高海拔のため降雪は早く、融雪は遅い。また、雪質が良く、12月から4月までスキーが楽しめる。小天狗岳(1,329m)からの眺めがすばらしい。		
	瀬 戸 瀬 野外スポーツ地域	既設	259.97	別表 参照	良好な雪質、雪量、長いシーズン、変化に富んだスロープ、温泉郷がある。		
	森 林 計 画 区 計		2箇所	633.34			

種類	名称	新設・既設	面積	位置 (林小班)	選定理由	備考	
風	網走西部森林管理署						
	武利岳風景林	既設	1,214.04	別表参照	大雪山系独特の森林景観と、高山植物の美しさ、変換に富んだ細い尾根、頂上からの大雪連峰及びオホーツク海の展望が美しい。		
	上武利風景林	既設	229.96	別表参照	春から秋にかけて特有の森林景観をなし、市街を流れる武利川の奇岩、清流と森林が調和している。		
景  林	山彦の滝風景林	既設	381.68	別表参照	年間を通じ流量が変わらず、28mの高さから頭上に落ちる瀑布は、周囲の針葉樹林の静寂を破り、また自然景観が美しい。		
	網走西部森林管理署西紋別支署						
	浮島峠風景林	既設	30.44	別表参照	高山湿原に浮かぶ浮島とそれを囲む原生天然林、その得意な自然景観と山岳の眺望がすばらしい。		
	上紋峠風景林	既設	8.09	別表参照	濃緑の絨毯を敷いたようなチシマザサの中に生育するダケカンバ林、藻瀬狩山の樹海と雄大な山岳眺望が美しい。		
	北見富士風景林	既設	425.88	別表参照	高山性山岳の原生的森林と変化に富んだ数条の滝、渓谷等があり、山頂付近には多数の高山植物が生育している。		
	森林計画区計	6箇所	2,290.09				
	総合計	13箇所	6,891.94				

注) 備考欄の「保健機能森林に該当する森林」とは、「森林の保健機能の増進に関する特別措置法」に基づき、施設の整備を森林の施業と一体的かつ計画的に推進する森林のことを指す。

【変更計画】

種類	名称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定理由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備考	
自然休養林	網走西部森林管理署									
	サロマ湖畔自然休養林	既設	463.60	別表参照	鬱蒼とした原生的森林が湖上に映える雄大な景観、原生花園といった自然と親しめる。	複天	駐車場外 (湧別町)	遊歩道外	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
	* (森林スポーツゾーン)		105.14							
	(風景ゾーン)		358.46							
網走西部森林管理署西紋別支署										
滝上溪谷自然休養林	既設	849.18	別表参照	天然林が多く、広葉樹林から針葉樹林へ移行する林相が美しく、野生動植物の観察に適し、樹海及び山岳の眺望がすばらしい。	単複天 間伐 12.96 ha	車道外 (滝上町)	標示塔外	「*」は、保健機能森林に該当する森林		
(自然観察教育ゾーン)		11.10								
* (自然観察教育ゾーン)		494.04								
(風景ゾーン)		344.04								
森林計画区計		1箇所	1,312.78							
自然観察教育林	網走西部森林管理署									
	ひらやま自然観察教育林	既設	1,099.53	別表参照	総面積のうち約500haが高山帯で、道東随一の貴重で豊富な高山植物が展開し、学術上からの価値がきわめて高い。	天	駐車場外 (遠軽町)	車道外	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
			0.95							
* (自然観察教育ゾーン)		1,098.58								
森林計画区計		1箇所	1,099.53							
森林スポーツ林	網走西部森林管理署									
	天狗岳森林スポーツ林	既設	775.54	別表参照	比麻良山、チトカニウシ山、支湧別岳等1000m以上の山岳連峰が視野に入り、天狗岳は夏山登山に利用されている。	複天		歩道外 延長 6000m	「*」は、保健機能森林に該当する森林	
			1.65							
	* (森林スポーツゾーン)		773.89							
北見峠森林スポーツ林	既設	780.66	別表参照	エゾマツ、ダケカンバ等の原生的森林に覆われ、林床はチシマザサが密生している。国道333号線のシラカンバロードは旅行者の憩いの場であり、春から秋は森林ハイキング、冬は早い時期からの降雪によりクロスカントリースキーが可能で道外からの利用も多く、年間を通じたレクリエーションの場である。	複天	駐車場外 (遠軽町)		保健機能森林に該当する森林		
森林計画区計		2箇所	1,556.20							

種類	名 称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考	
野外スポーツ地域	網走西部森林管理署									
	北大雪 野外 スポーツ地域	既設	373.37	別表 参照	高海拔のため降雪は早く、融雪は遅い。また、雪質が良い。また、12月から4月までスキーが楽しめる。小天狗岳(1,329m)からの眺めがすばらしい。	複 間伐 27.45 ha	監視舎 (地方公 共団体) スキーリフト (民間)	スキー スロー プ外		
	瀬戸瀬 野外 スポーツ地域	既設	259.97	別表 参照	良好な雪質、雪量、長いシーズン、変化に富んだスロープ、温泉郷がある。	複 天				
森林計画区計		2箇所	633.34							
風景林	網走西部森林管理署									
	武利岳風景林	既設	1,214.04	別表 参照	大雪山系独特の森林景観と、高山植物の美しさ、変換に富んだ細い尾根、頂上からの大雪連峰及びオホーツク海の展望が美しい。	複 天		歩道外 延長 5350m		
	上武利風景林	既設	229.96	別表 参照	春から秋にかけ特有の森林景観をなし、市街を流れる武利川の奇岩、清流と森林が調和している。	複 天				
	山彦の滝 風景林	既設	381.68	別表 参照	年間を通じ流量が変わらず、28mの高さから頭上に落ちる瀑布は、周囲の針葉樹林の静寂を破り、また自然景観が美しい。	複	休憩所外 (遠軽町)			
	網走西部森林管理署西紋別支署									
浮島峠風景林	既設	30.44	別表 参照	高山湿原に浮かぶ浮島とそれを囲む原生天然林、その得意な自然景観と山岳の眺望がすばらしい。	天					
上紋峠風景林	既設	8.09	別表 参照	濃緑の絨毯を敷いたようなチンマザサの中に生育するダケカンバ林、藻瀬狩山の樹海と雄大な山岳眺望が美しい。	天		駐車場			

種類	名 称	新設・ 既設	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	選 定 理 由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備 考
風景林	北見富士 風景林	既設	425.88	別表 参照	高山性山岳の原生 的森林と変化に富ん だ数条の滝、溪谷等 があり、山頂付近に は多数の高山植物が 生育している。	天			
	森林計画区計	6箇所	2,290.09						
	森林計画区合計	13箇所	6,891.94						

注1) 備考欄の「保健機能森林に該当する森林」とは、「森林の保健機能の増進に関する特別措置法」に基づき、施設の整備を森林の施業と一体的かつ計画的に推進する森林のことを指す。

注2) 施業方法 単＝育成単層林へ導くための施業      複＝育成複層林へ導くための施業  
天＝天然生林へ導くための施業

7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

該当なし

8 その他必要な事項

(3) 森林共同施業団地

名 称	対 象 地 (林 小 班)		面 積 (h a)	連携した施業 の内容	備 考
網走西部森林管理署					
支湧別地域森林 整備に関する協定	民	3017～3019	222		協定相手： 遠軽町
	国	2012～2013、2015～2017、 2020、2023い、2024、2028、 2041～2044	2,101		
網走西部森林管理署西紋別支署					
白鳥地区 森林整備推進協定	民	39～43	749		協定相手： 滝上町、 滝上町森林 組合
	国	263～269	1,043	・路網の共用 ・民有林土場の使用	
中立牛地区 森林整備推進協定	民	291～293	364		協定相手： 紋別市
	国	1019～1023	737		
森林計画区合計	民		1,335	3箇所	
	国		3,881		
	計		5,216		